

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

1時間の授業内容を確実に習得し、自分なりの考えを書いたり、発表したりできる児童の育成
 令和6年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点：国語97以上、算数97以上

3.指標に向けての取組

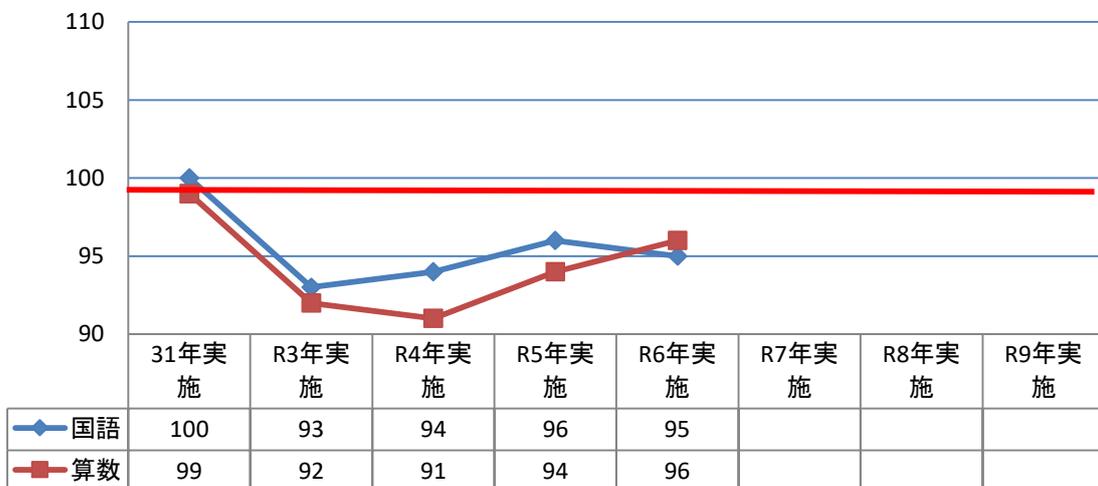
次の4点を中心に学力向上の取組を推進していく。なお、取組の推進にあたっては、義務教育学校の特性を生かし、前期・後期課程で協議して学力向上・保障推進委員会を中心に組織的に行っていく。

- ①各教科、めあて・まとめ・ふり返りや自分の考えを書くなど、書く活動の位置付け。
- ②学ぶ意欲や自己肯定感の向上及び基礎基本の定着を図るための「いなひがタイム(未来への一歩)」の設定。
- ③算数科授業においてレディネスを整える時間の設定。
- ④算数科授業における、複数体制授業及び習熟度別学習の実施(D層中心に支援)家庭学習の習慣化を図る、家庭学習強化週間の実施。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	95	96
嘉麻市	97	99
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

○短期目標の達成においては、算数科は2ポイント上回ることができた。国語科においては1ポイント下回った。但し、全国と比較すると国語科・算数科ともに厳しい状況にある。

○国語科においては、知識及び技能においては漢字などの言語事項が厳しい。また、思考・判断・表現においては、読むこと、書くことに課題がある。その結果、記述式の問題に課題がある。

○算数科においては、変化と関係、データの活用が厳しい状況にあり、思考・判断・表現においては、国語科同様読むこと、書くことに課題があり、記述式の問題に課題がある。

○児童質問紙の中で、「毎朝朝食を食べる」については、全国と比較して低い状況にある。「ICT機器を活用することで学習内容がよくわかる」については、全国より高い状況を示している。

6.各学校における今後の取組

◎本結果の分析及び嘉麻市としての取組を受け、これまでの取組を大切に、次の3点を中心に学力向上の取組を推進していく。なお、取組の推進にあたっては、義務教育学校の特性を生かし、前期・後期課で協働して学力向上・保障推進委員会を中心に組織的に行っていく。

1学力向上に向けた授業改善

①主題研修と連携し、書く活動を通して、自ら考え、表現できる児童生徒を育成するために、授業スタンダードを全職員で確認し、教師の授業力向上を図っていく。

②算数科授業における少人数授業(単純分割・習熟度別学習)・入り込み授業の実施。診断的評価・形成的評価・総括的評価を行いながらC・D層を中心に支援を行っていく。

2家庭学習の徹底。家庭学習の習慣化を図り、学力の定着を図っていくために家庭学習の内容を全職員で確認しながら、家庭学習の個別化や家庭学習強化週間を設けながら推進していく。

3「いなひがタイム」の充実。基礎基本の定着をはかるために、昼休み終了後に「いなひがタイム」を位置付けて、「鍛ほめ福岡メソッド」の理念を生かした100ます計算の取組を推進していく。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習状況の把握と個に応じた指導の工夫を推進する。そのために、各学校においてトリプル80の視点から評価を実施するとともに、学力向上検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。